

# 揖保川流域の歴史的景観とまちづくり ～水と生業～

大会実行委員長／原田 賢使

この度、第10回ヘリテージマネージャー大会を中西播磨地区内のたつの市において開催しましたので、その概要を報告致します。

参加者は、まち歩き88名、シンポジウム107名、懇親会65名でした。京都・神奈川・熊本からの参加者もあり、ヘリテージマネージャーが全国に広がりつつあることを感じさせる大会となりました。

## ◆ 大会の概要 ◆

1. 日時：平成24年6月2日（土）
2. 会場：たつの市立中央公民館
3. テーマ：揖保川流域の歴史的景観とまちづくり  
～水と生業～
4. プログラム
  - 10:30～ まち歩き
  - 13:30～ シンポジウム 開会
  - 13:45～ 基調講演 揖保川流域の生活と文化  
岩井 忠彦（近畿医療福祉大学）
  - 14:45～ パネルディスカッション  
コーディネーター 八木 雅夫（国立明石工業高等専門学校）  
パネリスト 浅井 良昭（ヒガシマル醤油株式会社）  
岩井 忠彦（近畿医療福祉大学）  
丸喜 法之（NPO法人おしまちコミュニケーション）  
岡野 政治（兵庫県ヘリテージマネージャー）  
橋 美佐子（兵庫県ヘリテージマネージャー）  
吉田 一幸（兵庫県ヘリテージマネージャー）

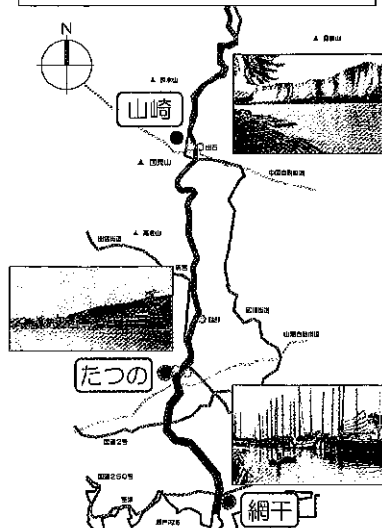
## 1. 大会の開催の経緯とテーマ設定

今回のヘリテージマネージャー大会の企画にあたり、

中西播磨地区では、地区活動も兼ね地区内において歴史的文化的遺産が残されている4つ地域（宍粟市山崎町、赤穂市坂越、たつの市、姫路市網干）のまちの歴史・成り立ち、歴史的文化的遺産の状況、まちづくりの状況について現地調査を行いました。

こうした中で、今回の大会では「たつの」のまちを、是非見ていただきたい地域として

揖保川流域と山崎・たつの・網干



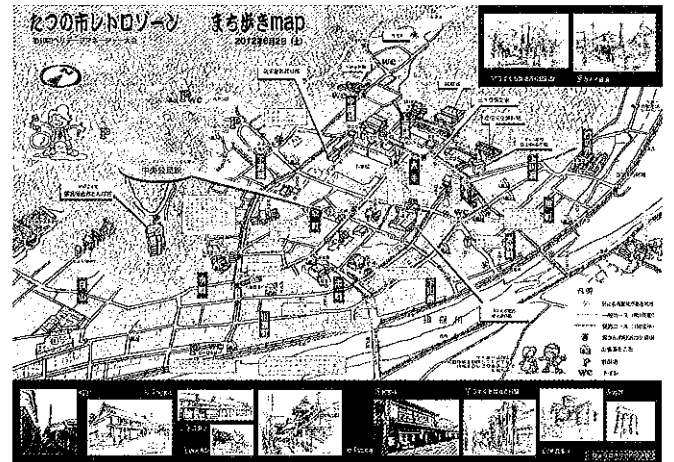
選定し、大会の開催候補地としました。

また、現地調査を通じて、これら4地域のうち、山崎、たつの、網干の3つのまちが、揖保川を利用した活発な舟運活動を介して、それぞれが密接に繋がり、まちの成り立ちに際して大きな影響を及ぼされてきたことがわかりました。

こうしたことから、大会のテーマを「揖保川流域の歴史的景観とまちづくり ～水と生業～」とし、「たつの」のまちを参加者の皆様に見学いただくとともに、揖保川流域に位置する山崎、たつの、網干の歴史的景観を活かしたまちづくりを考えていく機会にすることにしました。

## 2. まち歩き

午前の部のまち歩きでは、地区のヘリテージマネージャーが作成した「たつの市レトロゾーン まち歩きMAP」を参加者に配布し、自由散策により、たつの川西地区や堀家住宅の見学等を行いました。



川西地区では、武家屋敷資料館、旧脇坂屋敷、うすくち龍野醤油資料館等を見学して頂くとともに、たつののまちづくり活動に触れる機会として、龍野地区まちづくり協議会による醤油蔵和風展や旧銀行跡地を活用したカフェも見学して頂きました。

また、平成23年3月に県指定重要文化財となった堀家住宅については、所有者の方のご協力を得て、特別に公開・見学させて頂きました。



まち歩き



堀家住宅の見学

### 3. 基調講演

午後の部の最初は、歴史家で近畿医療福祉大学教授の岩井忠彦先生に、「揖保川流域の生活と文化」をテーマに基調講演を頂きました。

揖保川の水を利用し、筏による木材の運搬、高瀬舟による物資（米、大豆、醤油など）の運搬が行われるなど、揖保川水系が、物流の大動脈として大きな役割を果たしてきた経緯、それにより、山崎、たつの、網干やその周辺の地域において、生活と文化が繋がりながらまちが成り立ってきた経緯について、歴史的資料による検証を交えながら、解説を頂きました。



基調講演

### 4. パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、「揖保川水系の歴史的景観とまちづくりに ～水と生業～」をテーマに、国立明石高等専門学校の八木先生のコーディネートのもと、揖保川の水運を通じて深く繋がりをもちた山崎、たつの、網干に焦点をあて、それぞれの地域のまちづくりとこれからのヘリテージマネージャーの活動を考えていく機会としました。

山崎から岩井氏、たつのから浅井氏、網干から丸喜氏より、各地区の歴史やまちづくりについてご報告頂くとともに、各地区で活動している中・西播磨地区のヘリテージマネージャー（高橋氏、岡野氏、吉田氏）も参加し、今後の歴史的文化遺産を活用したまちづくりについて意見交換を行いました。



パネルディスカッション

各地域のまちづくりの状況は異なりますが、今後のまちづくりの展望について、パネリストより次のような主旨のまちづくり活動に対する思い・願いや提案がありました。

岩井氏より「一人ひとりの尽力が、文化や生活を豊かにしてくれると思う」

浅井氏より「今後、子供たちに何を残していくのかを考えながらまちづくりを進めていきたい」「地域でまち

づくりを進めていくためには、方向性をはっきり示すことが必要である」「地域の良さ・核になるものなど、本当の価値をみんなに伝えていくことが大切であり、今後の活動につなげていきたい」

丸喜氏より「NPO活動やまちづくり活動等を通じて、網干のまちを守っていきたい」「昔の人のまちに対する思いや行動を大切にしながら、これからも頑張っていきたい」

高橋氏より「歴史を大切に地域に何が残っているのから調べていかなければならない」

岡野氏より「歴史文化遺産との出会いを大切に、その調査や評価等を実施していく必要がある」

吉田氏より「まちづくり活動等では住民の方々の意思が大切だと考える」

また、コーディネーターの八木先生より「各地域で、それぞれのまちづくりが展開されているが、行政との関わりを踏まえると、たつのは、成功して進んでいる。網干は、近年ようやく取組が始まった。山崎は、これからである。という状況で、それぞれ条件が異なる中で、ヘリテージマネージャーや市民が地域の掘り起しや地域を見守っていく可能性が示された」「本当の価値をどう伝えていくのかを考えた場合に、ヘリテージマネージャーが、専門分野ですべきことがあると考えるので、今後の活動に繋げて頂きたい」と締めくくられました。

揖保川水系という地域を対象としたパネルディスカッションを通じて、今後のまちづくりやヘリテージマネージャー活動では、地域の歴史や遺産を再発見・再評価していくこと、それをわかりやすく地域の人々や訪れる方々に伝えていくこと、また、各地域が連携した活動が大切であることなどが、確認できたのではないかと考えています。

### 5. 懇親会

HM大会恒例の懇親会では、京都・神奈川・熊本からの参加者のあいさつや各地区の活動報告、情報交換をして頂くなど、午前中から長丁場の一日にもかかわらず、有意義な機会となりました。また、来年の第11回大会開催地となる神戸地区よりPRも頂きました。

### 6. 最後に

最後になりましたが、大会開催にあたり、県内各地のHMや関係行政機関等の方々、また、県外で歴史文化遺産の保存活用に向けて活躍されている専門家の方々にご参加頂くとともに、建築士会をはじめと多くの関係者の方々のご支援を得まして成功裏に終わりましたことを重ねて厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。